

# 学びの足あと

(学年懇談会資料)

## ～これまでの学びで語りつくせなかった総集編～

4・5月の臨時休校、自宅学習期間を経てようやく6月から登校して学習が始まった今年度。例年通りの学習や行事とはいきませんでした。この時期だから、こんな時だからこそ何ができるのか何を大事にするのか子どもたちと考え、走り続けた1年でした。

4年生の子どもたちはとてもまっすぐで素直な子どもたちです。そんな子どもたちも委員会見学、来年度のクラブ立ち上げなど、学校を支える・引っ張っていく仕事が間近に迫ってきており、少しずつ高学年としての自覚が芽生えてきたと感じることがとても多くなりました。「〇組の誰々が・・・」というセリフではなく、「私たち上小の〇年が・・・」と学年が一つのワンチームとして、仲間として支えあい助け合い高め合う姿が担任一同、今ではイメージできるくらい成長を遂げてきました。

今回の学年便りの裏面「学びの足あと」は、5年生へと進級を間近に控えた子どもたちの活躍をおとどけする総集編です。

## 〇社会の学習

今年度の社会科の学習では「ごみ」「水道局」「地域の伝統行事」「わたしたちの県のまちづくり」を学習してきました。2月からは箱根町を題材として、神奈川県のみちづくりについて学習しました。

箱根町の伝統として受け継がれる寄木細工に着目し、種類や作り方、広げるための取組を資料から調べました。その中で職人たちや地域の人々の「寄木細工を色々な人々に知ってほしい」という思いに気付きました。初めて寄木細工に触れる児童も多く、子どもたちは興味をもって学習に取り組みました。「寄木細工の模様がきれい」「職人さんみたいに寄木細工を作りたい」「箱根に行きたくなってきた」と学習を振り返る児童も多く、これまで以上に、自分たちが住む神奈川県の特徴について理解が深められている姿が見られました。



## 〇笑顔で共に遊ボッチャ

子ども達はボッチャを通して、誰もが気持ちよく関わるために大切なことは何かを考え、実践してきました。ボッチャはルールこそシンプルですが、奥が深く、子ども達はやればやるほど夢中になりました。試合も白熱し、一喜一憂する中で思いがけず人を傷つけてしまうこともありました。その度に、自分達が抱えている課題とその解決策を真剣に話し合い、「相手の立場に立って想像したり考えたりすることの大切さ」について考えました。実際に、友達に対する表情や態度、言葉に少しずつ変化が見られ、温かい雰囲気の中でボッチャを楽しむ様子が見られるようになりました。

ボッチャのよさや面白さを十分に味わった子ども達は、次に「ボッチャでもっとたくさんの人を笑顔にしたい」という思いをもち、「誰でも誰とでも」をキーワードに、他学年の児童とボッチャで交流する計画を立てました。どのような方法ならルールを分かりやすく伝えられるか、どのような言葉かけをしたら楽しんでもらえるか、自分たちの経験を思い出しながら、相手の立場に立って考え、準備をしました。

当日は、初めてボッチャを経験する相手に優しく丁寧にやり方を説明したり、「すごい」「上手」「大丈夫だよ」など明るく前向きな言葉をかけたりと、これまで自分たちが学んできたことを生かした関わり方で、相手も自分も笑顔でボッチャを楽しむことができました。2年生からは、「優しく教えてくれて嬉しかった」「またお姉さん、お兄さんと一緒に遊びたい」などの感想が届き、子ども達の励みになったようです。

今後は、ボッチャを通して学んだことや考えた事を生かして、「共生」をテーマに学習の最終段階に入ります。

## 〇図工や国語の学習

図工の「わすれられないあの時」の学習では、心にのこっている思い出を絵に表しました。楽しかったことや緊張したこと、嬉しかったこと、感動したこと…。1番の思い出を選び、その時の気持ちや場面の様子を思い出しながら構想しました。これまでの学習で学んだ、にじみやドリッピングなどの技法を使う子どももあり、様子や自分の気持ちが伝わるよう工夫して表しました。

また、国語の「感動を言葉に」とも関連させ、絵で表したことを詩にも表してみました。同じ言葉を繰り返してリズムよく書いたり、目に映った景色、体に出た反応などを書いたりして、表現しました。活動の最後では、絵と詩をセットにして鑑賞し、友達の気持ちを感じ取っていました。